

## 梶木又三先生を偲ぶ言葉

梶木先生、先生のご逝去から早や二カ月の時が流れました。

この四月に兵庫県土地改良事業団体連合会の会長職を引き継ぎながら、もはや教えを請うことも、よすが(縁)とたよることもかなわぬ今をしみじみと感じております。唯ただご冥福をお祈りするばかりであります。今日は先生の「在りし日」をしのび、共に思い出を語るため、関係の深かった沢山の方々にお集まりいただき、思い出多いこの土地改良会館でしばしの刻を過とごしたいと存じます。

先生は、大正八年神戸市北区の有馬でお生まれになり、この地で育

ち、五年間の寮生活を送った三田中学から九州鍋島藩士の「葉隠」の書に心ひかれ、佐賀高等学校へと進学されました。更には京都帝国大学農学部でライフワークとなつた農業土木を学び、昭和十七年に農林省に奉職されました。

この間、中学時代には後のとしお県議会議員、ふじい かんぞう故藤井寛三先生、大学時代には元京都大学総長沢田敏男先生など生涯のご友人を得られたのであります。

高校時代は野球部に属し、二年生の時ファーストを守り、インターハイで全国優勝するなど、スポーツマンとしての素質も発揮されました。

た。

農林省では、戦争による中断の後、昭和二十二年から現在の小野市・

とつじよつがわ

加東市を中心とした国営東条川地区農業水利事業の調査に入り、鴨川ダム建設時は工事課長として、この地で五年間過ごされたのが本県との直接的な出会いの始まりでありました。

その後全国の現場を歩かれ、まさに農業の現場を心より愛された先生でした。昭和三十二年から本省勤務となり、昭和四十五年建設部長を最後に農林省を退官されました。この時期は、国営の加古川西部、東播用水、そして北淡路の土地改良事業がスタートするなど、ほ場整

備や農道整備など事業制度の創設に奔走され、今日の兵庫の農業農村整備の形はこの時に出来上がったものであります。

昭和四十六年、全国の土地改良関係者の絶大なご支持を受け、参議院議員に初当選され、三期十八年間、平成元年に引退されるまで、大蔵政務次官、国務大臣環境庁長官、各特別委員長のご要職を歴任されました。所属する自民党では、国会対策委員長や参議院幹事長を務められるなど、党の幹部として、兵庫県政においても頼みとする人でありました。

政界引退後、平成二年には、勲一等瑞宝章の栄に浴され、また平成

三年には全国土地改良事業団体連合会の会長に就任され、平成十五年の退任に至るまで、毎年全国土地改良大会を主催するなど関係者の結束を確固たるものとされ、全国の土地改良事業の推進に大きな指導力を発揮されました。

我が兵庫県土連においては、昭和五十年から十一期三十二年間に及ぶ会長職を務めていただきましたが、この間、本県土地改良事業の最盛期と重なり国営・県営・団体営を問わず、色々な局面で大変お世話になりました。今にして思えば梶木先生の存在そのものが私達の誇りであり、力となつて今日の土地改良事業の成果があるとの思いを抱く

ものであります。

先生の「人となり」は、「一見無愛想だが、付き合えば温かい人柄を感じる」と多くの先輩方が評価されておられるとおり、私たち後輩も常に大変温かいご指導をいただきました。先生は生前、「和を持って貴しとなす」「農のもとには人たいほんにあり」とよく揮毫されたとお聞きしております。先生の志であつた「農は国の大本なり」を胸に、先生のご意志をしっかりと受け継いで、私達は農業農村の発展に最善を尽くすことをここにお誓い申し上げたいと思います。

最後になりましたが、長年苦楽を共にされた奥さまに心より感謝申

し上げ、梶木又三先生のご冥福を心よりお祈り申し上げて、式辞といたします。

平成二十年七月二十二日

水土里ネット兵庫

兵庫県土地改良事業団体連合会

会長 西村 康稔